

Dell Wyse Management Suite

バージョン 1.4 移行ガイド



メモ、注意、警告

① | **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

△ | **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。

⚠ | **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2019 Dell Inc. その関連会社。不許複製・禁無断転載。Dell、EMC、およびその他の商標は、Dell Inc. またはその子会社の商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

1 はじめに.....	5
Wyse Device Manager から Wyse Management Suite への移行.....	5
2 移行の前提条件.....	7
Wyse Management Suite のライセンス要件.....	7
Teradici ベースのデバイス移行の前提条件.....	8
移行のサポート環境.....	8
データインポートのサポート対象環境.....	8
デバイス移行のサポート環境.....	9
3 Wyse Management Suite インポートツールの使用方法.....	11
主な機能.....	11
Wyse Management Suite インポートツールをインストールするための前提条件.....	11
Wyse Management Suite インポートツールの制限事項.....	12
Wyse Management Suite インポートツールのインストール.....	12
Wyse Management Suite インポートツールの使用開始.....	12
Wyse Device Manager データベースのガイドライン.....	13
4 データのインベントリのインポート.....	14
RSP パッケージのインポート.....	14
RSP パッケージのインポートステータスの表示.....	15
制限.....	15
Windows ベース WCM リソースのインポート.....	15
Windows ベース WCM リソースのインポートステータスの表示.....	16
ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート.....	16
既存の WDM ビューを使用したグループおよびプロファイルの作成.....	17
WDM デフォルトグループタイプを使用したグループおよびプロファイルの作成.....	17
ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートステータスの表示.....	18
Teradici ベース WCM リソースのインポート.....	18
Teradici ベース WCM リソースのインポートステータスの表示.....	19
ビューおよび Teradici ベースの構成のインポート.....	19
既存の WDM ビューを使用したグループおよび構成の作成.....	20
WDM デフォルトグループタイプを使用したグループおよび構成の作成.....	20
ビューおよび Teradici ベースの構成のインポートステータスの表示.....	21
ロールバック機能.....	21
5 Wyse Device Manager から Wyse Management Suite へのデバイスの切り替え.....	23
対応オペレーティングシステム.....	23
ThinLinux デバイスへの RSP パッケージの導入.....	24
RSP パッケージの SUSE Linux デバイスへの導入.....	24
RSP パッケージの Windows ベースデバイスへの導入.....	24

INI パラメータの ThinOS デバイスへの導入.....	25
ThreadX 5.x デバイスの WDM から Wyse Management Suite への切り替え.....	25
6 移行後の処理.....	27
7 Wyse Management Suite インポートツールのアンインストール.....	28
8 トラブルシューティング.....	29
データのインポートの失敗.....	29
正しくないデバイス、グループ、プロファイルがインポートされる.....	29
Wyse Management Suite にアクセスできない.....	29
ビューとプロファイルのインポート中にインポート処理が停止する.....	30
SUSE Linux デバイスの WDM から Wyse Management Suite への切り替えが失敗する.....	30
Teradici ベースデバイスと WDM および Wyse Management Suite サーバ間の通信.....	30

はじめに

このガイドでは、Wyse Device Manager (WDM) から Wyse Management Suite への移行について説明します。このガイドの対象読者は、管理者権限のあるエンタープライズカスタマーです。各種 Thin Client オペレーティングシステム、Wyse Device Manager、クラウドインフラストラクチャ、ネットワークテクノロジー、ファイルシステムパーミッション、ユーザー認証テクノロジーに関する知識が必要です。

デルでは、WDM バージョン 5.7.2 から Wyse Management Suite バージョン 1.4 への移行を推奨しています。

データのインポートとは、WDM から Wyse Management Suite へのデータインベントリのインポートプロセスを指します。データインベントリとは、次を指します。

- RSP パッケージ
- Windows ベースの Wyse Configuration Manager (WCM) リソース
- Teradici ベースの WCM リソース
- WDM ビューで利用できるグループおよびデバイス情報
- Windows ベースのプロファイル
- Teradici ベースの構成

すべてのデータのインベントリを Wyse Management Suite にインポートしたら、デバイスを WDM から Wyse Management Suite に切り替えます。

① **メモ:** このガイドでは、Windows とは次のオペレーティングシステムをさします。

- Windows Embedded Standard 7 (32 ビット)
- Windows Embedded Standard 7 Professional (64 ビット)
- Windows Embedded 8 Standard (64 ビット)
- Windows 10 IoT Enterprise (64 ビット)

Wyse Device Manager から Wyse Management Suite への移行

全体的な移行プロセスには、次のようなタスクがあります。

- 1 移行に関する要件については、「[前提条件](#)」を参照してください。
- 2 ライセンス要件を確認します。「[Wyse Management Suite のライセンス要件](#)」を参照してください。
- 3 インポートツールをインストールする前に、制限事項を確認します。「[制限](#)」を参照してください。
- 4 サーバのオペレーティングシステムに Wyse Management Suite インポートツールをダウンロードしてインストールします。「[Wyse Management Suite インポートツールのインストール](#)」を参照してください。
- 5 Wyse Management Suite インポートツールを起動します。「[Wyse Management Suite インポートツールの使用開始](#)」を参照してください。
- 6 Wyse Device Manager からデータのインベントリをインポートします。「[データのインベントリのインポート](#)」を参照してください。
 - RSP パッケージをインポートします。「[RSP パッケージのインポート](#)」を参照してください。
 - Windows ベース WCM リソースをインポートします。「[Windows ベース WCM リソースのインポート](#)」を参照してください。
 - Teradici ベース WCM リソースをインポートします。「[Teradici ベース WCM リソースのインポート](#)」を参照してください。
 - ビューおよび Windows ベースプロファイルをインポートします。「[ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート](#)」を参照してください。
 - ビューおよび Teradici ベース構成をインポートします。「[ビューおよび Teradici ベース構成のインポート](#)」を参照してください。
- 7 インポートステータスを表示して、保留中およびインポートに失敗しデータのインベントリをインポートします。
 - RSP パッケージのインポートステータスを表示します。「[RSP パッケージのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。

- Windows ベース WCM リソースのインポートステータスを表示します。「[Windows ベース WCM リソースのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。
 - Teradici ベース WCM リソースのインポートステータスを表示します。「[Teradici ベース WCM リソースのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。
 - ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートステータスを表示します。「[ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。
 - ビューおよび Teradici ベース構成のインポートステータスを表示します。「[ビューおよび Teradici ベース構成のインポートステータスの表示](#)」を参照してください。
- 8 Thin Client インフラストラクチャに基づいて、デバイスを WDM から切り替えます。「[Wyse Device Manager から Wyse Management Suite へのデバイスの切り替え](#)」を参照してください。
- Windows ベースのデバイスを切り替えます。「[Windows ベースデバイスへの RSP パッケージの導入](#)」を参照してください。
 - ThinLinux ベースのデバイスを切り替えます。「[ThinLinux デバイスへの RSP パッケージの導入](#)」を参照してください。
 - SUSE Linux Enterprise ベースのデバイスを切り替えます。「[RSP パッケージの SUSE Linux デバイスへの導入](#)」を参照してください。
 - ThinOS ベースのデバイスを切り替えます。「[INI パラメータの ThinOS デバイスへの導入](#)」を参照してください。
 - Teradici ベースデバイスを切り替えます。「[ThreadX 5.x デバイスの WDM から Wyse Management Suite への切り替え](#)」を参照してください。
- 9 Wyse Device Manager から Wyse Management Suite にインポートデータされたデータを検証します。「[移行後の処理](#)」を参照してください。
- 10 Wyse Management Suite インポートツールをアンインストールします。「[Wyse Management Suite インポートツールのアンインストール](#)」を参照してください (オプション) 。

移行の前提条件

次の Wyse Device Manager (WDM) および Wyse Management Suite の移行要件を満たしていることを確認します。

- **Wyse Device Manager (WDM)**
 - Wyse Management Suite への移行は、WDM バージョン 5.7.2 以降でサポートされています。それよりも前のバージョンの WDM を使用している場合は、WDM をバージョン 5.7.2 にアップグレードしてください。
 - WDM Enterprise Edition をネットワークにインストールする必要があります。
 - WDM に進行状態のスケジュールされたジョブまたはタスクがある場合は実行できません。
 - **Wyse Management Suite**
 - Wyse Management Suite バージョン 1.4 をインストールします。
 - ビュー、Windows ベースプロファイル、Teradici ベースの構成のインポートに必要なテナントは 1 つだけです。複数テナントはサポートされていません。
 - テナントには、グループおよびデバイスを作成したユーザーがあってははいけません。
 - テナントには Pro ライセンスが必要です。
- ① **メモ: Pro ライセンスは、Thin Client 用の Wyse Management Suite の Enterprise バージョンにアクセスするための有料ライセンスです。**
- Wyse Management Suite ローカルリポジトリには、RSP パッケージをインポートする WDM のディスク空き容量以上の空き容量が必要です。リモートリポジトリはサポートされません。
 - Wyse Management Suite には、WDM 以上の数のデバイスライセンスが必要です。

トピック :

- [Wyse Management Suite のライセンス要件](#)
- [Teradici ベースのデバイス移行の前提条件](#)
- [移行のサポート環境](#)
- [データインポートのサポート対象環境](#)
- [デバイス移行のサポート環境](#)

Wyse Management Suite のライセンス要件

データをインポートする前に、Wyse Management Suite インポートツールは、Wyse Management Suite のライセンスを確認します。Wyse Management Suite サーバは、ライセンスのカテゴリとプライベートクラウドのインストールタイプに応じて、有効期限の日付を確認します。移行の実行に適切なライセンスがあることを確認してください。

次の場合、Wyse Management Suite インポートツールは移行を実行します。

- Pro ライセンスでインストールされたプライベートクラウドで、Thin Client ライセンスはアクティブ。
- Pro ライセンスでインストールされたプライベートクラウドで、Thin Client ライセンスの有効期限が切れている。
- Pro トライアルライセンスでインストールされたプライベートクラウドで、Thin Client トライアルライセンスの有効期限は切れていない。

次の場合、Wyse Management Suite インポートツールは移行をサポートしません。

- 標準ライセンスでインストールされたプライベートクラウド。
- Pro トライアルライセンスでインストールされたプライベートクラウドで、Thin Client トライアルライセンスの有効期限が切れている。

Teradici ベースのデバイス移行の前提条件

インポートツールを使用して ThreadX.5.x デバイスを WDM から Wyse Management Suite に移行する前に、次のタスクを必ず完了しておいてください。

- 1 WDM サーバを停止します (Jetty Apache サービス)。
- 2 実行中の EM SDK サービスをすべて停止します。
- 3 Wyse Management Suite 1.4 インストーラーを使用して、EM SDK パッケージを最新バージョンにアップグレードします。
- 4 Wyse Management Suite のインストールに進みます。EM SDK コンポーネントは選択市内でください。

移行のサポート環境

表 1. Wyse Device Manager

オペレーティングシステム	データベース	Wyse Device Manager
<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2008 R2 SP1 Enterprise EditionWindows Server 2012 Standard EditionWindows Server 2012 R2 Standard EditionWindows 7 Enterprise SP1 (32 ビット)Windows 7 Enterprise SP1 (64 ビット)	<ul style="list-style-type: none">Microsoft SQL Server 2014 ExpressMicrosoft SQL Server 2012Microsoft SQL Server 2012 Enterprise(高可用性向け)Microsoft SQL Server 2008 R2 (英語)Microsoft SQL Server 2008 Enterprise (32 ビット)	Wyse Device Manager バージョン 5.7.2

表 2. Wyse Management Suite

オペレーティングシステム	Wyse Management Suite
<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2012 R2Windows Server 2016	Wyse Management Suite バージョン 1.4

データインポートのサポート対象環境

表 3. データ移行

シンクライアントで利用可能なデータ	Wyse Device Manager (WDM)	Wyse Management Suite	追加情報
Windows Embedded Standard 7、Windows Embedded Standard 7P、Windows Embedded 8 Standard、Windows 10 IoT Enterprise、ThinLinux のイメージパッケージ。	パッケージは イメージ カテゴリに存在。	イメージパッケージは、ローカルリポジトリの OSImages/valid folder に移動。	Raw パッケージは、Wyse Management Suite ローカルリポジトリの rspPackages/valid folder に移動。
Windows Embedded Standard 7、Windows Embedded Standard 7P、Windows Embedded 8 Standard、Windows 10 IoT	パッケージは その他のパッケージ カテゴリに存在。	アプリケーションパッケージは、ローカルリポジトリの rspPackages/valid folder に移動。	なし

シンクライアントで利用可能なデータ	Wyse Device Manager (WDM)	Wyse Management Suite	追加情報
Enterprise、ThinLinux のアプリケーションパッケージ。			
Windows Embedded Standard 7、Windows Embedded Standard 7P、Windows Embedded 8 Standard、Windows 10 IoT Enterprise の構成パッケージ。	パッケージは デバイス構成 カテゴリに存在。	構成パッケージは Wyse Management Suite にプロファイルとして移動されており、グループに構成パッケージを割り当てる必要がある。	なし
デフォルトパッケージ	パッケージはエージェントのアップグレード用にマーク付けされており、エージェントのアップグレードを起動。	移行されない。	Wyse Management Suite には、デフォルトのエージェントアップデートパッケージが入っている。
Windows Embedded Standard 7、Windows Embedded Standard 7P、Windows Embedded 8 Standard、Windows 10 IoT Enterprise のプロファイル。	Profile Manager を通じてブッシュされた デバイス構成プロファイル。	プロファイルは設定ポリシーに移動。	vWorkspace のリモート接続は移行できない。
Windows Embedded Standard 7、Windows Embedded Standard 7P、Windows Embedded 8 Standard、Windows 10 IoT Enterprise のプロファイルに関連付けられているリソース。	壁紙および Windows ワイヤレスプロファイル。	リソースはローカルリポジトリのデータフォルダに移動。	使用許諾契約書およびロゴは、Windows ベースのオペレーティングシステムには適用されません。
ThreadX 5.x デバイスの Teradici 構成。	ThreadX 5.x 構成プロファイルが DDC に存在しています。	Wyse Management Suite にインポートされた ThreadX_5X 構成ごとに、1 つの Teradici ポリシーが作成されます。	なし
ThreadX 5.x デバイスの Teradici 構成に関連付けられているリソース。	PCoIP デバイス構成カテゴリに表示される会社のロゴ。アプリケーション / イメージカテゴリにあるファームウェアまたはイメージファイル。	会社のロゴは、Teradici OSD Logo ファイルとして アプリ & データ > ファイルリポジトリ > インベントリ にインポートされます。 ファームウェアファイルは アプリ & データ > OS イメージリポジトリ > Teradici に移動されます。	なし

デバイス移行のサポート環境

表 4. デバイスの移行

デバイスのオペレーティングシステム	Wyse Device Manager (WDM) でサポート	Wyse Management Suite でサポート	WDM から Wyse Management Suite への移行
<ul style="list-style-type: none"> Windows Embedded Standard 2009 Windows XP Embedded Windows CE 	はい	いいえ	いいえ
<ul style="list-style-type: none"> Windows Embedded Standard 7 (32 ビット) 	はい	はい	はい

デバイスのオペレーティングシステム	Wyse Device Manager (WDM) でサポート	Wyse Management Suite でサポート	WDM から Wyse Management Suite への移行
<ul style="list-style-type: none"> Windows Embedded Standard 7 Professional (64 ビット) Windows Embedded 8 Standard (64 ビット) Windows 10 IoT Enterprise (64 ビット) 			
Windows Embedded 8 Standard (32 ビット)	はい	いいえ	いいえ
SUSE Linux Enterprise 11 SP1	はい	いいえ	いいえ
SUSE Linux Enterprise 11 SP2	はい	いいえ	そのとおりです。WDM で、デバイスを SUSE Linux Enterprise 11 SP3 にアップグレードします。
SUSE Linux Enterprise 11 SP3	はい	はい	はい
<ul style="list-style-type: none"> ThinOS ThinOS PC-over-IP (PCoIP) ThinOS Lite 	はい	はい	はい
ThinLinux	はい	はい	はい
Teradici 4.x	はい	いいえ	いいえ
Teradici 5.x	はい	はい	はい

Wyse Management Suite インポートツールの使用方法

Wyse Management Suite インポートツールを使用すると、WDM から Wyse Management Suite にデータをインポートすることができます。

トピック：

- [主な機能](#)
- [Wyse Management Suite インポートツールをインストールするための前提条件](#)
- [Wyse Management Suite インポートツールの制限事項](#)
- [Wyse Management Suite インポートツールのインストール](#)
- [Wyse Management Suite インポートツールの使用開始](#)

主な機能

Wyse Management Suite インポートツールの主な機能は次のとおりです。

- Wyse Device Manager (WDM) から Wyse Management Suite にデータをインポートするためのユーザーインターフェイス。
- WDM から最大 50,000 台のデバイスをインポートする機能。
- WDM から最大 100 GB のパッケージをインポートする機能。
- WDM から最大 40,000 のグループをインポートする機能。
- 既存のビューまたはデフォルトグループタイプを使用して、WDM からデバイスをインポートする機能。
- グループレベルの階層、設定、デバイスをプレビューウィンドウに表示する機能。プレビューウィンドウには、Wyse Management Suite へのトポロジーおよび設定の割り当て方法に関する情報が表示されます。
- データのインポートステータスを表示する機能。
- Wyse Management Suite にインポートされたすべてのグループ、デバイス、Windows ベースプロファイルを消去する機能。
- WDM からのパッケージおよびリソースのインポートに、HTTP/HTTPS および FTP プロトコルをサポート。
- WDM との接続に Windows および SQL 認証をサポート。

Wyse Management Suite インポートツールをインストールするための前提条件

Wyse Management Suite インポートツールは、サーバのオペレーティングシステム要件とディスク容量要件を満たす任意のシステムにインストールできません。

- ディスクの空き容量が 200 MB 以上あること。
- Microsoft .Net Framework 4.5 がインストール済みであること。

対応サーバオペレーティングシステムは、次のとおりです。

- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2016

Wyse Management Suite インポートツールの制限事項

Wyse Management Suite インポートツールには、次のような制限があります。

- JSON 形式の Teradici ベースの構成および Windows ベースプロファイルのみが、Wyse Configuration Manager (WCM) からインポートできます。ThinOS および ThinLinux WCM プロファイルは、インポートできません。
- XML 形式の Windows ベースワイヤレスプロファイルのみが、WCM からインポートできます。
- スケジュール済みのジョブは、Wyse Device Manager (WDM) からインポートできません。
- ライセンスを検証する場合、インポートツールは Wyse Management Suite のサポート対象外デバイスをフィルタしません。ツールは、Wyse Management Suite のライセンスサブスクリプションの総数と WDM からインポートするデバイスに基づいてライセンスを確認します。
- Default Device Configuration (DDC) を使用して Teradici 5.x 構成をインポートすると、最初のパッケージのみがインポートされます。
- Default Device Configuration (DDC) のインポートは、Windows および ThinLinux ベースのデバイスについては行えません。

Wyse Management Suite インポートツールのインストール

Wyse Management Suite インポートツールをインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 [Dell Digital Locker](#) にサインインして、サーバのオペレーティングシステムに Wyse Management Suite インポートツールのインストーラをダウンロードします。
- 2 インストーラを解凍します。
- 3 `WMS_Import_Tool.exe` ファイルを実行します。

① **メモ:** サポート対象のサーバのオペレーティングシステムで Wyse Management Suite インポートツールのインストーラを実行していない場合は、インストーラにより次のメッセージが表示されます。

WMS インポートツールは、このバージョンのオペレーティングシステムをサポートしていません。インストールを中止します。

この問題を解決するには、サポート対象のサーバのオペレーティングシステムをインストールしてから、インポートツールのインストールを続行します。

- 4 [デルのエンドユーザーライセンス契約](#) リンクをクリックして、ライセンス契約をお読みください。
- 5 **次へ** をクリックします。
デフォルトのインストールパスは、`<Program Files>\Dell\WMS\ImportTool` です。
- 6 カスタムのインストールパスを選択する場合は、[参照](#) をクリックします。
- 7 **次へ** をクリックします。
インストーラは、.NET Framework 4.5 がインストールされていることを確認します。.NET Framework 4.5 がインストールされていない場合は、サイレントモードでインストールされます。インストールが完了すると、**インストールの完了** ページが表示されます。
- 8 **起動** をクリックします。

Wyse Management Suite インポートツールの使用開始

- 1 Wyse Management Suite インポートツールを起動します。

① **メモ:** インポート処理中に、WDM のマスターリポジトリが使用され、HTTP/HTTPS または FTP に設定されている必要があります。共通インターネットファイルシステム (CIFS) プロトコルはサポートされません。
- 2 WDM サーバの IP アドレスまたはホスト名を、**SQL Express 用サーバ /DB 名** フィールドに入力します。「[Wyse Device Manager データベースのガイドライン](#)」を参照してください。
- 3 ユーザー名とパスワードを各フィールドに入力して、WDM サーバにアクセスします。

① **メモ:** インポートツールは、WDM データベースに保存されている資格情報で入力された資格情報を検証します。
- 4 接続に SQL 認証ではなく Windows 認証を使用する場合は、**Windows 認証を使用** チェックボックスを選択します。

ユーザー名とパスワード用のフィールドは使用できません。信頼された接続が2つのドメイン間で有効になっている場合は、同ドメインでも別ドメインでも Windows 認証が機能します。ただしシステムへのログインには、リモートデータベースにユーザーとしてすでに追加されているアカウントを使用します。

- 5 Wyse Management Suite サーバの IP アドレスまたはホスト名を、**WMS サーバの URL** フィールドに入力します。

① **メモ:** Wyse Management Suite サーバが 443 以外のポートに設定されている場合は、サーバアドレスにポート番号を入力します。

たとえば、`https://10.0.0.444:567` の 567 はカスタムポート番号です。

- 6 管理者のユーザー名とパスワードを各フィールドに入力して、Wyse Management Suite サーバにアクセスします。

- 7 **Connect** (接続) をクリックします。

Wyse Device Manager インポートタスク 画面が表示されます。

① **メモ:** 誤った認証情報を入力した場合やライセンス要件を満たしていない場合には、エラーメッセージが表示されます。

① **メモ:**

- インポートツールが WDM サーバ、データベース、リポジトリのいずれにも接続できない場合は、エラーメッセージが表示されます。
- インポートツールが Wyse Management Suite サーバに接続できない場合には、エラーメッセージが表示されます。

インポートツールは、ログイン画面で入力された情報を、パスワードを除いて `C:\ProgramData\WMS-Import\WMSMigrationInfo.json` に保存します。エラーログは、`C:\ProgramData\WMS-Import` フォルダに保存されます。

Wyse Device Manager データベースのガイドライン

- WDM データベースを Microsoft SQL Server に作成した場合は、サーバ名のみを入力します。WDM データベースを Microsoft SQL Server Express に作成した場合は、サーバ名とデータベースのインスタンス名を入力します。たとえば、`VM\RapporDB` と入力します。
- WDM データベースを Microsoft SQL Server に作成し、カスタムポートに設定した場合は、サーバ名の後にカスタムポート番号を入力します。カンマまたはコロンを使用して、カスタムポートとサーバ名を区切ります。たとえば、`10.0.0.411,12345` または `10.0.0.4 0.411:12345` のようにします。ここで、`10.0.0.411` は WDM サーバの IP アドレス、`12345` はカスタムポート番号です。
- WDM データベースを Microsoft SQL Server Express に作成し、カスタムポートに設定した場合は、サーバ名の後にカスタムポートを入力します。カンマまたはコロンを使用して、カスタムポートとサーバ名を区切ります。たとえば、`10.0.0.411\rappor,12345` または `10.0.0.411\rappor:12345` のようにします。ここで、`10.0.0.411` は WDM サーバの IP アドレス、`rappor` はデータベース名、`12345` はカスタムポート番号です。

① **メモ:** WDM がインストールされているサーバで初めてインポートツールを使用している場合、サーバ URL が自動的に入力されます。この WDM サーバ URL は、Wyse Device Manager サーバ URL フィールドに表示されます。ログイン画面の WDM サーバ情報を変更する場合に、WDM サーバの URL がログイン画面に入力されることはありません。

データのインベントリのインポート

データのインポートは、Wyse Device Manager (WDM) から Wyse Management Suite にデータのインベントリをインポートするプロセスです。

WDM インポートタスク 画面から、各タスクを個別に実行できます。ただし、ビューおよび Windows のプロファイルのインポート前に、WDM から Windows ベース WCM リソースをインポートする必要があります。ビューおよび Teradici 構成をインポートするには、最初に WDM から Teradici ベース WCM リソースをインポートする必要があります。

各グループとそのサブグループに対して、次の動作が行われます。

- Wyse Management Suite は、グループトークンが有効なグループを作成します。グループトークンとグループ説明は自動的に生成されます。
- ビューおよび Windows ベースプロファイル / Teradici ベースの構成のインポートに可能なトランザクションは 1 つだけです。グループ、デバイス、プロファイルのインポート後にデータを再度インポートする場合は、**ロールバック** オプションでトランザクションをロールバックする必要があります。

△ | 注意: ロールバック オプションは、Wyse Management Suite にインポートされたすべてのデータを消去します。

ロールバックアクティビティが完了したら、**ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成** オプションを使用して、再度データをインポートできます。

- Wyse Management Suite では、作成されたグループプロファイルのためのグループレベルの設定ポリシーが作成されます。
- サーバはインポートタスクのイベントを作成します。そこには、グループ数、デバイス数、プロファイル数が含まれています。

トピック :

- [RSP パッケージのインポート](#)
- [Windows ベース WCM リソースのインポート](#)
- [ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート](#)
- [Teradici ベース WCM リソースのインポート](#)
- [ビューおよび Teradici ベースの構成のインポート](#)
- [ロールバック機能](#)

RSP パッケージのインポート

1 説明にしたがって、Wyse Management Suite インポートツールを起動します。「[Wyse Management Suite インポートツールの使用開始](#)」を参照してください。

2 **RSP パッケージ** セクションの **インポート開始** をクリックします。

WDM で使用可能な RSP パッケージのリストが表示されます。各 RSP パッケージには、次の属性が表示されます。

- **名前** : RSP パッケージの名前が表示されます。
- **タイプ** : RSP パッケージのタイプが表示されます。アプリケーションおよびイメージタイプの RSP パッケージのみがリストされます。
- **OS** : RSP パッケージに関連付けられているオペレーティングシステムが表示されます。
- **ステータス** : RSP パッケージのインポートステータスが表示されます。

検索 ボックスを使用して、リスト内の RSP パッケージを検索します。

3 インポートするパッケージを選択して、**インポート** をクリックします。

保留中のアップデートの一部またはデフォルトデバイス設定 (DDC) に割り当てられている場合でも、パッケージはインポートされます。ネットワークドライブのディスクサイズが選択したパッケージのサイズより小さい場合は、エラーメッセージが表示されます。

① | メモ: Raw イメージは有効な RSP パッケージに転送されます。

- ① **メモ:** RSP パッケージ インポート画面では、構成パッケージはインポートできません。ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成 オプションを使用すれば、Profile Manager for Windows クライアントの構成パッケージをインポートできます。

パッケージのインポートステータスは、**進行中** と表示されます。RSP パッケージのインポートの所要時間は、RSP パッケージのサイズに応じて、数分から数時間かかります。パッケージが Wyse Management Suite リポジトリにインポートされると、パッケージのインポートステータスは **インポート済み** に変更されます。パッケージのインポートに失敗した場合は、インポートステータスが **失敗** に変わります。インポートステータス画面の詳細については、「[RSP パッケージのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。

デルは、[リポジトリアクセスの検証](#) リンクをクリックして、Wyse Management Suite ローカルリポジトリにアクセスできることを検証することをお勧めします。Wyse Management Suite ローカルリポジトリが設定されていれば、Wyse Management Suite ローカルリポジトリを入力できます。Wyse Management Suite ローカルリポジトリにアクセスできない場合は、ネットワーク資格情報を入力します。

RSP パッケージのインポートステータスの表示

WDM インポートタスク 画面で RSP パッケージをインポートすると、タスクのステータス画面が自動的に表示されます。ステータス画面には、次の属性がリストされます。

- **インポートされたパッケージ数** : 正常にインポートされた RSP パッケージの総数が表示されます。
- **保留中のパッケージ数** : インポートを保留中の RSP パッケージの総数が表示されます。保留中の RSP パッケージをインポートするには、リンクをクリックして、インポートアクティビティを再度開始します。
- **インポートに失敗したパッケージ数** : インポートに失敗した RSP パッケージの総数が表示されます。失敗した RSP パッケージをインポートするには、リンクをクリックして、インポートアクティビティを再度開始します。

① **メモ:**

- RSP パッケージのインポートアクティビティが完了すると、次のログイン時または **タスクに戻る** をクリックしたときに、**ステータスの表示** オプションが表示されます。
- 前回のインポートアクティビティの日付は、**RSP パッケージ** タスクセクションに表示されます。

制限

RSP パッケージのインポートには、次のような制限があります。

- 非表示またはアクティブでないパッケージは、WDM からインポートされません。
- ソフトウェアパッケージの名称に **ツール** という語が含まれている場合は、WDM からインポートされません。**イメージなし** は、Default Device Configuration (DDC) でのみ使用される空のパッケージです。

Windows ベース WCM リソースのインポート

Windows ベースの構成パッケージに関連付けられているリソースを Wyse Management Suite にインポートするには次の手順に従います。

- 1 Wyse Management Suite インポートツールを起動します。「[Wyse Management Suite インポートツールの使用開始](#)」を参照してください。
- 2 **WCM リソース** セクションで **インポート開始** をクリックします

WDM で使用可能な Windows ベース WCM リソースのリストが表示されます。各リソースには、次の属性が表示されます。

- **名前** : リソースの名前が表示されます。
- **タイプ** : リソースのタイプ (壁紙または Windows ワイヤレスプロファイルのいずれか) が表示されます。
- **OS** : リソースに関連付けられているオペレーティングシステムが表示されます。
- **ステータス** : リソースのインポートステータスが表示されます。

検索 ボックスを使用して、リスト内のリソースを検索できます。

- 3 インポートするリソースを選択して、**インポート** をクリックします。

- ① **メモ:** Wyse Management Suite インポートツールでは、アンダースコアとリソース名のプレフィックスがパッケージ名に付いています。対応する設定をインポートすると、ツールは同様に名前をアップデートします。ただし、WDM のデータは変更されません。変更は内部的なものです。

リソースのインポートステータスは、**進行中** と表示されます。リソースが Wyse Management Suite リポジトリにインポートされると、リソースのインポートステータスは **インポート済み** に変更されます。リソースのインポートに失敗した場合、リソースのインポートステータスは **失敗** に変更されます。インポートステータス画面の詳細については、「[Windows ベース WCM リソースのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。

Windows ベース WCM リソースのインポートステータスの表示

WDM インポートタスク 画面で Windows ベース Wyse Configuration Manager (WCM) リソースをインポートすると、タスクのステータス画面が自動的に表示されます。ステータス画面には、次の属性がリストされます。

- **インポートされたパッケージ数** : 正常にインポートされたパッケージの総数が表示されます。
- **保留中のパッケージ数** : インポートを保留中のリソースの総数が表示されます。保留中のリソースをインポートするには、リンクをクリックして、インポートアクティビティを再度開始します。
- **インポートに失敗したパッケージ数** : インポートに失敗したリソースの総数が表示されます。失敗したリソースをインポートするには、リンクをクリックして、インポートアクティビティを再度開始します。

① **メモ:**

- リソースのインポートアクティビティが完了すると、次のログイン時または **タスクに戻る** をクリックしたときに、**ステータスの表示** オプションが表示されます。
- 最後のインポートアクティビティの日付が **WCM リソース** タスクセクションに表示されます。

ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート

プロファイルを Wyse Management Suite にインポートする前に、Windows ベースプロファイルで使用されていた Windows ベース Wyse Configuration Manager (WCM) リソースをインポートする必要があります。Windows ベース WCM リソースのインポートの詳細については、「[Windows ベース WCM リソースのインポート](#)」を参照してください。

グループ、デバイス、プロファイルのインポートのために選択できるビューは 1 つだけです。Wyse Management Suite がサポートするグループ階層の数は、WDM のビューと同様に 1 つだけです。

ビューおよび Windows ベースプロファイルを Wyse Management Suite にインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 Wyse Management Suite インポートツールを起動します。「[Wyse Management Suite インポートツールの使用開始](#)」を参照してください。
- 2 **ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成** セクションで **インポート開始** をクリックします。
ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成 画面に、2 つのオプション **作成** および **ビルド** が表示されます。デフォルトでは、**作成** オプションが選択されています。
- 3 次のいずれかのタスクを実行します。
 - 既存の WDM ビューのいずれかを使用してグループおよびプロファイルを作成します。「[既存の WDM ビューを使用したグループおよびプロファイルの作成](#)」を参照してください。
 - WDM デフォルトグループタイプを使用してグループおよびプロファイルを作成するか、あるいは WDM にビューとして割り当てられていないグループ階層を作成します。「[デフォルト WDM グループタイプを使用したグループおよびプロファイルの作成](#)」を参照してください。
- 4 **インポート** をクリックします。
インポートステータスは、**進行中** と表示されます。ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートの所要時間は、インポートされるデータのサイズに応じて、数分から数時間にかかります。データが Wyse Management Suite リポジトリにインポートされると、インポートステータスは **インポート済み** に変更されます。データのインポートに失敗した場合、インポートステータスは **失敗** に変更されます。インポートステータス画面の詳細については、「[ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。

既存の WDM ビューを使用したグループおよびプロファイルの作成

既存の Wyse Device Manager (WDM) ビューのいずれかを使用してグループおよびプロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成** 画面の **作成** ラジオボタンをクリックします。
選択したビュー (すべてのデバイス 以外) に割り当てられたグループのドロップダウンリストが表示されます。デフォルトでは、ビューにあるすべてのグループが移行のために選択されます。
- 2 ビューを選択し、**次へ** をクリックします。
グループ階層が 9 階層以下のビューのみが選択できます。値が空のグループレベルがある場合、グループレベルの名前は NotSet に変わります。ただし、それらのグループレベルが WDM にない場合は、使用可能な親に割り当てられます。

① **メモ:** 壁紙およびワイヤレス用のリソースがプロファイル / 設定にある場合は、リソースファイル名に WDM の構成パッケージ名がプレフィックスされます。たとえば、`packagename_resourcename` のようになります。

- 3 次のオプションを任意に選択します。
 - **グループ:** デフォルトでは、**グループ** チェックボックスが選択されます。
 - **デバイス:** WDM で選択済みのビューにすでに関連付けられているデバイスをインポートする場合は、**デバイス** チェックボックスを選択して、**次へ** をクリックします。
 - **WES プロファイル:** WDM で選択済みのビューにすでに割り当てられている Windows ベースプロファイルをインポートする場合は、**WES プロファイル** チェックボックスを選択して、**次へ** をクリックします。
各グループに割り当てられているデバイスおよびプロファイルのグループ階層が、画面に表示されます。

① **メモ:** 選択したビューに両方のデバイスと WES プロファイルを割り当てる場合は、デバイスと WES プロファイル の両方のチェックボックスを選択します。選択したビューに WES プロファイルと ThreadX_5X 構成 の両方を割り当てる場合は、WES プロファイルと ThreadX_5X 構成 の両方を選択します。

WDM のすべての設定の割り当てが選択されます。変更はできません。特定のグループにデバイス構成を実際に割り当てられるのは、ビルド オプションを使用して実行した場合のみです。詳細については、「[デフォルト WDM グループタイプを使用したグループおよびプロファイルの作成](#)」を参照してください。

WDM デフォルトグループタイプを使用したグループおよびプロファイルの作成

ビルド オプションを使用して、WDM デフォルトグループタイプを使用したグループおよびプロファイルを作成します。グループ階層を Wyse Management Suite で作成できるのは、WDM にビューとしてグループ化が割り当てられていない場合です。

- 1 **ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成** 画面で、**ビルド** ラジオボタンをクリックします。
WDM のすべてのデフォルトグループタイプがリストされた、ドロップダウンリストが表示されます。グループの階層構造は順序で決まります。
グループ階層を作成する場合、最大 9 個のレベルを選択できます。Wyse Management Suite のデフォルトオプションとして、**デフォルトポリシーグループ** を使用できます。グループ階層は、**デフォルトポリシーグループ** の一部です。したがって、Wyse Management Suite の階層の深さの合計は、**デフォルトポリシーグループ** を含んで最大 10 層です。WDM デフォルトグループを使用してグループ階層を動的に作成し、構成パッケージをグループに割り当てることができます。

① **メモ:** WDM の すべてのデバイス ビューは、インポートできません。WDM のビューを複数持つことはできますが、Wyse Management Suite にインポートできるビューは 1 つだけです。WDM の既存のビューをインポートしない場合は、ビルド オプションを使用してグループ階層を作成することができます。

① **メモ:** 複数の WDM 構成パッケージをグループに割り当てることはできません。ビューに割り当て済みのプロファイルがなく、WDM で専用の JSON 構成パッケージを使用している場合は、構成パッケージを割り当ててください。
- 2 ドロップダウンリストで、グループタイプを選択します。グループ階層を作成する場合は、ドロップダウンリストの横にあるプラス記号 (+) をクリックして、グループタイプを追加します。いずれかのレベルのリストでデフォルトグループタイプを選択すると、同じグループタイプが再度リストに表示されることはありません。

- ① **メモ:** 値が空のグループレベルがある場合、グループレベルの名前は NotSet に変わります。ただし、それらのグループレベルが WDM がない場合は、使用可能な親に割り当てられます。
- ① **メモ:** 壁紙およびワイヤレス用のリソースがプロファイル / 設定にある場合は、リソースファイル名に WDM の構成パッケージ名がプレフィックスされます。たとえば、packagename_resourcename のようになります。

3 必要に応じて、次のオプションのいずれかを選択します。

- **グループ:** デフォルトでは、**グループ** チェックボックスが選択されます。
- **デバイス:** 作成したビューのグループにデバイスを関連付けるには、**デバイス** チェックボックスを選択して、**次へ** をクリックします。
- **WES プロファイル:** Windows ベースプロファイルを作成したビューに割り当てるには、次の手順を実行します。
 - 1 **WES プロファイル** チェックボックスを選択して、**次へ** をクリックします。
 - 2 **プロファイル** ドロップダウンリストで、プロファイルを選択します。
 - 3 **グループ** ドロップダウンリストで、グループを選択します。

プロファイルとグループをさらに追加するには、ドロップダウンリストの横にある**プラス記号 (+)** をクリックして、プロファイルおよびグループを追加します。グループ階層を作成する場合、選択できるグループレベルは最大 9 レベルです。これは、最大グループ数は Wyse Management Suite の対応レベル数を超えられないためです。

デバイスと Windows ベースプロファイルの両方を作成したビューに割り当てる場合は、**デバイス** チェックボックスと **WES プロファイル** チェックボックスの両方を選択します。

- ① **メモ:** Teradici ベースデバイスを管理していて、Teradici ベースの構成をインポートしたい場合は、ThreadX 5.x 構成 チェックボックスをオンにします。詳細については、「[ビューおよび Teradici ベースの構成のインポート](#)」を参照してください。

ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートステータスの表示

WDM インポートタスク 画面でビューおよび Windows ベースプロファイルをインポートすると、タスクのステータス画面が自動的に表示されます。ステータス画面には、次の属性が表示されます。

- **インポートされたグループ数:** 正常にインポートされたグループの総数が表示されます。
- **インポートされたプロファイル数:** 正常にインポートされた Windows ベースプロファイルの総数が表示されます。
- **インポートされたデバイス数:** 正常にインポートされたデバイスの総数が表示されます。
- **インポートに失敗したグループ数:** インポートに失敗したグループの総数が表示されます。失敗したグループをインポートするには、ロールバックアクティビティを実行して、グループをもう一度インポートします。
- **インポートに失敗したプロファイル数:** インポートに失敗した Windows ベースプロファイルの総数が表示されます。失敗したプロファイルをインポートするには、ロールバックアクティビティを実行して、プロファイルをもう一度インポートします。
- **インポートに失敗したデバイス数:** インポートに失敗したデバイスの総数が表示されます。失敗したデバイスをインポートするには、ロールバックアクティビティを実行して、デバイスをもう一度インポートします。

① **メモ:**

- ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートアクティビティが完了すると、**ステータスの表示** オプションと **ロールバック** オプションが表示されます。これらのオプションは、次のログイン時または、**タスクに戻る** をクリックした後に表示されます。ロールバック機能の詳細については、「[ロールバック機能](#)」を参照してください。
- 前回のインポートアクティビティの日付は、**ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成** タスクセクションに表示されます。

Teradici ベース WCM リソースのインポート

Teradici ベースの構成に関連付けられているリソースを Wyse Management Suite にインポートするには次の手順に従います。

- 1 Wyse Management Suite インポートツールを起動します。「[Wyse Management Suite インポートツールの使用開始](#)」を参照してください。
- 2 **WCM リソース** セクションで **インポート開始** をクリックします
WDM の ThreadX 5.x デバイスで使用可能な Teradici ベースの WCM リソースのリストが表示されます。各リソースには、次の属性が表示され
ず。

- **名前**：リソースの名前が表示されます。
- **タイプ**：リソースのタイプ、会社のロゴまたは Teradici ファームウェアが表示されます。
- **OS**：リソースに関連付けられているオペレーティングシステムが表示されます。
- **ステータス**：リソースのインポートステータスが表示されます。

検索 ボックスを使用して、リスト内のリソースを検索できます。

- 3 インポートするリソースを選択して、**インポート** をクリックします。

リソースのインポートステータスは、**進行中** と表示されます。リソースが Wyse Management Suite リポジトリにインポートされると、リソースのインポートステータスは **インポート済み** に変更されます。リソースのインポートに失敗した場合、リソースのインポートステータスは **失敗** に変更されます。インポートステータス画面の詳細については、「[Teradici ベース WCM リソースのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。

Teradici ベース WCM リソースのインポートステータスの表示

WDM インポートタスク 画面で Teradici ベース Wyse Configuration Manager (WCM) リソースをインポートすると、タスクのステータス画面が自動的に表示されます。ステータス画面には、次の属性がリストされます。

- **インポートされたパッケージ数**：正常にインポートされたパッケージの総数が表示されます。
- **保留中のパッケージ数**：インポートを保留中のリソースの総数が表示されます。保留中のリソースをインポートするには、リンクをクリックして、インポートアクティビティを再度開始します。
- **インポートに失敗したパッケージ数**：インポートに失敗したリソースの総数が表示されます。失敗したリソースをインポートするには、リンクをクリックして、インポートアクティビティを再度開始します。

① メモ:

- リソースのインポートアクティビティが完了すると、次のログイン時または **タスクに戻る** をクリックしたときに、**ステータスの表示** オプションが表示されます。
- 前回のインポートアクティビティの日付は、**WCM リソース** タスクセクションに表示されます。

ビューおよび Teradici ベースの構成のインポート

Teradici ベースの構成を Wyse Management Suite にインポートする前に、Teradici ベース構成で使用されていた Teradici ベース Wyse Configuration Manager (WCM) リソースをインポートする必要があります。Teradici ベース WCM リソースをインポートする方法については、「[Teradici ベース WCM リソースのインポート](#)」を参照してください。

グループ、ThreadX 5.x デバイス、構成のインポートに選択できるビューは 1 つだけです。Wyse Management Suite がサポートするグループ階層の数は、WDM のビューと同様に 1 つだけです。

ビューおよび Teradici ベース構成を Wyse Management Suite にインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 Wyse Management Suite インポートツールを起動します。「[Wyse Management Suite インポートツールの使用開始](#)」を参照してください。
- 2 **ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成** セクションで **インポート開始** をクリックします。
ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成 画面に、2 つのオプション **作成** および **ビルド** が表示されます。デフォルトでは、**作成** オプションが選択されています。
- 3 次のいずれかのタスクを実行します。
 - 既存のいずれかの WDM ビューを使用して、グループと構成を作成します。「[既存の WDM ビューを使用したグループおよび構成の作成](#)」を参照してください。
 - WDM デフォルトグループタイプを使用してグループと構成を作成するか、または WDM にビューとして割り当てられていないグループ階層を作成します。「[デフォルトの WDM グループタイプを使用したグループおよび構成の作成](#)」を参照してください。
- 4 **インポート** をクリックします。
インポートステータスは、**進行中** と表示されます。ビューおよび Teradici ベースプロファイルのインポートの所要時間は、インポートされるデータのサイズに応じて、数分から数時間かかります。データが Wyse Management Suite リポジトリにインポートされると、インポートステータスは **インポート済み** に変更されます。データのインポートに失敗した場合、インポートステータスは **失敗** に変更されます。インポートステータス画面の詳細については、「[ビューおよび Teradici ベースの構成のインポートステータスの表示](#)」を参照してください。

既存の WDM ビューを使用したグループおよび構成の作成

既存の Wyse Device Manager (WDM) ビューのいずれかを使用してグループおよび構成を作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成** 画面の **作成** ラジオボタンをクリックします。
選択したビュー (すべてのデバイス 以外) に割り当てられたグループのドロップダウンリストが表示されます。デフォルトでは、ビューにあるすべてのグループが移行のために選択されます。
- 2 ビューを選択し、**次へ** をクリックします。
グループ階層が 9 階層以下のビューのみが選択できます。値が空のグループレベルがある場合、グループレベルの名前が `NotSet` に変わります。ただし、それらのグループレベルが WDM にない場合は、使用可能な親に割り当てられます。
- 3 次のオプションを任意に選択します。
 - **グループ** : デフォルトでは、**グループ** チェックボックスが選択されます。
 - **デバイス** : WDM で選択済みのビューにすでに関連付けられているデバイスをインポートする場合は、**デバイス** チェックボックスを選択して、**次へ** をクリックします。
 - **ThreadX_5X 構成** : WDM で選択済みのビューにすでに割り当てられている ThreadX 5.x デバイス構成をインポートする場合は、**ThreadX_5X 構成** チェックボックスを選択して **次へ** をクリックします。
各グループに割り当てられているデバイスおよびプロファイルのグループ階層が、画面に表示されます。

構成 / パッケージ名は、ThreadX_5X 構成のグループのデバイス数の後に表示されます。イメージを選択すると、イメージ名が表示されます。

- ① **メモ:** 選択したビューにデバイスと ThreadX_5X 構成の両方を割り当てる場合は、**デバイス** と **ThreadX_5X 構成** の両方のチェックボックスを選択します。選択したビューに **WES プロファイル** と **ThreadX_5X 構成** の両方を割り当てる場合は、**WES プロファイル** と **ThreadX_5X 構成** の両方のチェックボックスを選択します。
- ① **メモ:** WDM のすべての設定の割り当てが選択されます。変更はできません。特定のグループにデバイス構成を実際に割り当てられるのは、ビルド オプションを使用して実行した場合のみです。詳細については、「**デフォルトの WDM グループタイプを使用したグループおよび構成の作成**」を参照してください。

WDM デフォルトグループタイプを使用したグループおよび構成の作成

ビルド オプションを使用して、WDM のデフォルトグループタイプでグループとプロファイルを作成します。グループ階層を Wyse Management Suite で作成できるのは、WDM にビューとしてグループ化が割り当てられていない場合です。

- 1 **ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成** 画面の **ビルド** ラジオボタンをクリックします。
WDM のすべてのデフォルトグループタイプがリストされた、ドロップダウンリストが表示されます。グループの階層構造は順序で決まります。
グループ階層を作成する場合、最大 9 個のレベルを選択できます。Wyse Management Suite のデフォルトオプションとして、**デフォルトポリシーグループ** を使用できます。グループ階層は、**デフォルトポリシーグループ** の一部です。したがって、Wyse Management Suite の階層の深さの合計は、**デフォルトポリシーグループ** を含んで最大 10 層です。WDM デフォルトグループを使用してグループ階層を動的に作成し、構成パッケージをグループに割り当てることができます。
 - ① **メモ:** WDM のすべてのデバイス ビューは、インポートできません。WDM のビューを複数持つことはできますが、Wyse Management Suite にインポートできるビューは 1 つだけです。WDM の既存のビューをインポートしない場合は、ビルド オプションを使用してグループ階層を作成することができます。
 - ① **メモ:** 複数の WDM 構成パッケージをグループに割り当てることはできません。ビューに割り当て済みの ThreadX 5.x 構成がなく、WDM で専用の JSON 構成パッケージを使用している場合は、**構成パッケージ** を選択してグループに割り当ててください。
- 2 ドロップダウンリストで、グループタイプを選択します。グループ階層を作成する場合は、ドロップダウンリストの横にあるプラス記号 (+) をクリックして、グループタイプを追加します。いずれかのレベルのリストでデフォルトグループタイプを選択すると、同じグループタイプが再度リストに表示されることはありません。

- ① **メモ:** 値が空のグループレベルがある場合、グループレベルの名前が NotSet に変わります。ただし、それらのグループレベルが WDM がない場合は、使用可能な親に割り当てられます。

3 必要に応じて、次のオプションのいずれかを選択します。

- **グループ:** デフォルトでは、**グループ** チェックボックスが選択されます。
- **デバイス:** 作成したビューのグループにデバイスを関連付けるには、**デバイス** チェックボックスを選択して、**次へ** をクリックします。
- **ThreadX_5X 構成:** ThreadX 5.x 構成を作成したビューのグループに割り当てるには、次の手順を実行します。
 - 1 **ThreadX_5X 構成** チェックボックスを選択して、**次へ** をクリックします。
 - 2 **プロファイル** ドロップダウンリストで、Teradici ベースの構成を選択します。
 - 3 **グループ** ドロップダウンリストで、グループを選択します。

プロファイルとグループをさらに追加するには、ドロップダウンリストの横にある**プラス記号 (+)** をクリックして、構成とグループを追加します。グループ階層を作成する場合、選択できるグループレベルは最大 9 レベルです。これは、最大グループ数は Wyse Management Suite の対応レベル数を超えられないためです。

デバイスと Teradici ベース構成の両方を作成したビューに割り当てる場合は、**デバイス** チェックボックスと **ThreadX_5X 構成** チェックボックスの両方を選択します。

- ① **メモ:** Windows ベースのデバイスを管理していて、Windows ベースのプロファイルをインポートする場合は、**WES プロファイル** チェックボックスを選択します。詳細については、「[ビューおよび WES プロファイルのインポート](#)」を参照してください。

ビューおよび Teradici ベースの構成のインポートステータスの表示

WDM インポートタスク 画面でビューおよび Teradici ベースプロファイルをインポートすると、タスクのステータス画面が自動的に表示されます。ステータス画面には、次の属性が表示されます。

- **インポートされたグループ数:** 正常にインポートされたグループの総数が表示されます。
- **インポートされたプロファイル数:** 正常にインポートされた Teradici ベースの構成の総数が表示されます。
- **インポートされたデバイス数:** 正常にインポートされた ThreadX 5.x デバイスの総数が表示されます。
- **インポートに失敗したグループ数:** インポートに失敗したグループの総数が表示されます。失敗したグループをインポートするには、ロールバックアクティビティを実行して、グループをもう一度インポートします。
- **インポートに失敗したプロファイル数:** インポートに失敗した Teradici ベースの構成の総数が表示されます。失敗した構成をインポートするには、ロールバックアクティビティを実行して、構成をもう一度インポートします。
- **インポートに失敗したデバイス数:** インポートに失敗した ThreadX 5.x デバイスの総数が表示されます。失敗したデバイスをインポートするには、ロールバックアクティビティを実行して、デバイスをもう一度インポートします。

① **メモ:**

- ビューおよび Teradici ベースの構成のインポートアクティビティが完了すると、次のログイン時または **タスクに戻る** をクリックしたときに、**ステータスの表示** オプションと **ロールバック** オプションが表示されます。ロールバック機能の詳細については、「[ロールバック機能](#)」を参照してください。
- 前回のインポートアクティビティの日付は、**ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成** タスクセクションに表示されます。

ロールバック機能

Wyse Management Suite インポートツールには、Wyse Management Suite にインポートされたすべてのグループ、デバイス、プロファイルを消去するための **ロールバック** オプションがあります。

- △ **注意:** **ロールバック** オプションは、Wyse Management Suite にインポートされたすべてのデータを消去します。管理者が、グループ、デバイス、プロファイルを作成していた場合、関連するデータも Wyse Management Suite から削除されます。

ロールバック後に、ビューおよびプロファイルのインポートアクティビティを再度実行できます。

ロールバックを実行するには、次の手順を実行します。

- 1 **WDM インポートタスク** 画面に移動します。
- 2 **ビューおよび WES プロファイル / ThreadX_5X 構成** セクションで、**ロールバック** をクリックします。

Wyse Management Suite に登録済みのデバイスがある場合は、ロールバックプロセスを続行するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。

3 **ロールバック** をクリックします。

ロールバックプロセスの完了に要する時間は、Wyse Management Suite にインポートされているデータのインベントリのサイズに依存します。

① **メモ:** ロールバックオプションを使用できるのは、**表示**、**Windows** ベースプロファイル、**Teradici** ベースの構成のみです。

ロールバックを Teradici ベースデバイスで実行しても、デバイスは Wyse Management Suite から削除されず、Wyse Management Server との通信を続行します。EM SDK を使用して、デバイスを Wyse Management Suite から WDM に移動するには、次の手順を実行します。

- 1 EM SDK サーバで、Teradici SDK サービスを停止させます。
- 2 WDM にログインし、**デバイス** ページに移動します。
- 3 すべてのデバイスを選択し、**更新** をクリックします。

Wyse Device Manager から Wyse Management Suite へのデバイスの切り替え

WDM から Wyse Management Suite へのデバイスのインポートが完了すると、Wyse Management Suite のデバイス登録ステータスは **事前登録済み** と表示されます。

Windows Embedded Standard、Windows 10 IoT Enterprise、ThinLinux、SUSE Linux デバイスを WDM から Wyse Management Suite に切り替えるには、RSP パッケージを導入します。RSP パッケージを導入すると、接続が WDM から Wyse Management Suite に変更され、Wyse Device Agent (WDA) が新しいバージョンにアップグレードされます。

ThinOS デバイスを WDM から Wyse Management Suite に切り替えるには、INI パラメータを導入します。

Wyse Management Suite の **ポータル管理** タブを使用して、ThreadX 5.x デバイスを Teradici サーバと同期させます。

① メモ:

- グループのデバイスごとに、デバイスがグループに事前登録されます。テナントに MAC アドレスが存在すると、事前登録は失敗します。インポートデータに MAC アドレスが重複したデバイスがある場合は、同じ MAC アドレスを持つ最初のデバイスがインポートされます。
- Wyse Management Suite は、MAC アドレスを使用して、事前登録された既存デバイスとデバイスを一致させます。MAC アドレスが正しい場合は、事前登録済みデバイスのグループ **ownerId** が返されます。MAC アドレスが正しくないか利用できない場合、デバイスは管理対象外グループに配置されます。

WDM から Wyse Management Suite へのデバイスの切り替えが完了すると、Wyse Management Suite コンソールのデバイス登録ステータスは **登録済み** に変更されます。

トピック :

- [対応オペレーティングシステム](#)
- [ThinLinux デバイスへの RSP パッケージの導入](#)
- [RSP パッケージの SUSE Linux デバイスへの導入](#)
- [RSP パッケージの Windows ベースデバイスへの導入](#)
- [INI パラメータの ThinOS デバイスへの導入](#)
- [ThreadX 5.x デバイスの WDM から Wyse Management Suite への切り替え](#)

対応オペレーティングシステム

デバイス切り替え機能は、次のオペレーティングシステムでサポートされます。

- Windows Embedded Standard 7 (32 ビット)
- Windows Embedded Standard 7P (64 ビット)
- Windows Embedded 8 Standard (64 ビット)
- Windows 10 IoT Enterprise (64 ビット)
- ThinLinux
- SUSE Linux Enterprise
- ThinOS および ThinOS Lite
- ThreadX 5.x

ThinLinux デバイスへの RSP パッケージの導入

RSP パッケージを ThinLinux ベースのデバイスに導入するには、次の手順を実行します。

- 1 [Dell Digital Locker](#) から、RSP パッケージをダウンロードします。
- 2 ダウンロードした RSP パッケージを、Wyse Device Manager (WDM) バージョン 5.7.2 に登録します。
- 3 **その他のパッケージ** に移動し、登録した RSP パッケージを選択して、**パッケージスクリプト** をクリックします。
パッケージスクリプト画面が表示されます。
- 4 **編集** をクリックして、サーバ URL の RSP パッケージスクリプトの Wyse Management Suite サーバの URL を指定します。
たとえば、`"/bin/sh/tmp/deviceSwitchOver.sh https://wmserver.wms.com:443"` のように指定します。
- 5 **保存** をクリックします。
- 6 WDM で RSP パッケージを ThinLinux デバイスに導入します。
WDM を使用した RSP パッケージのインストールについては、www.dell.com/manuals にある『*Dell Wyse Device Manager version 5.7.2 Administrator's Guide*』(Dell Wyse Device Manager バージョン 5.7.2 管理者ガイド) を参照してください。

RSP パッケージの SUSE Linux デバイスへの導入

RSP パッケージを SUSE Linux Enterprise ベースのデバイスに導入するには、次の手順を実行します。

- 1 [Dell Digital Locker](#) から、RSP パッケージをダウンロードします。
- 2 ダウンロードした RSP パッケージを、Wyse Device Manager (WDM) バージョン 5.7.2 に登録します。
- 3 **その他のパッケージ** に移動し、登録した RSP パッケージを選択して、**パッケージスクリプト** をクリックします。
パッケージスクリプト画面が表示されます。
- 4 **編集** をクリックして、次の手順を実行します。
 - a RSP パッケージスクリプトのタグ `<WMS Server URL>` に、Wyse Management Suite サーバの URL を指定します。
 - b RSP パッケージスクリプトのタグ `<MQTT Server URL>` に、通知サーバの URL を指定します。
 - c RSP パッケージのタグ `<GroupToken>` に、グループトークンを指定します。たとえば、`"/bin/sh/tmp/deviceSwitchOver.sh https://wmserver.wms.com:443 wmserver:1883 defa-quarantine"` のようにします。
- 5 **保存** をクリックします。
- 6 WDM を使用して、パッケージを SUSE Linux デバイスに導入します。
WDM を使用した RSP パッケージのインストールについては、www.dell.com/manuals にある『*Dell Wyse Device Manager version 5.7.2 Administrator's Guide*』(Dell Wyse Device Manager バージョン 5.7.2 管理者ガイド) を参照してください。

① メモ: デルは、RSP パッケージスクリプトでは、管理対象外グループトークン (`defa-quarantine`) を使用することをお勧めします。Wyse Management Suite にデバイスを登録すると、デバイスがグループに移動します。

RSP パッケージの Windows ベースデバイスへの導入

RSP パッケージを Windows ベースのデバイスに導入するには、次の手順を実行します。

- 1 [Dell Digital Locker](#) から、RSP パッケージをダウンロードします。
- 2 ダウンロードした RSP パッケージを、Wyse Device Manager (WDM) バージョン 5.7.2 に登録します。
- 3 **その他のパッケージ** に移動し、登録した RSP パッケージを選択して、**パッケージスクリプト** をクリックします。
パッケージスクリプト画面が表示されます。
- 4 **編集** をクリックして、サーバ URL の RSP パッケージスクリプトの Wyse Management Suite サーバの URL を指定します。
たとえば、`"C:\Temp\WESMigrationUtil.exe WDA_14.0.0.108_Unified.exe https://wmserver.wms.com:443" "+"` のように指定します。
- 5 **保存** をクリックします。
- 6 WDM を使用して、パッケージを Windows ベースデバイスに導入します。

WDM を使用した RSP パッケージのインストールについては、www.dell.com/manuals にある『Dell Wyse Device Manager version 5.7.2 Administrator's Guide』(Dell Wyse Device Manager バージョン 5.7.2 管理者ガイド) を参照してください。

① **メモ:** システムは、パッケージの導入プロセス中に 3 回再起動します。

INI パラメータの ThinOS デバイスへの導入

お使いのデバイスで ThinOS バージョン 8.4 以降を実行していることを確認してください。INI パラメータの ThinOS ベースのデバイスへの導入は、次の手順で行います。

- 1 次の INI パラメータを指定して、wnos.ini ファイルを作成します。

表 5. INI パラメータ

ThinOS v8.5 ベースのデバイス	ThinOS v8.4 ベースのデバイス
AutoLoad=1	AutoLoad=1
SignOn=1	SignOn=1
WDAService=yes\ Priority=WMS	WDAService=yes\ Priority=CCM
WMSEnable=yes\ Server=<Server URL>\	CCMEnable=yes\ CCMServer=<Server URL>\
CAValidation=no\ Override=yes	GroupPrefix=<Prefix>\ GroupKey=<Key>\ MQTTServer=<Server URL>\ CAValidation=no\ Override=yes

① **メモ:** ThinOS Lite デバイスの場合は、表に記載されている INI パラメータと同じパラメータで、xen.ini ファイルを作成する必要があります。

- 2 wnos.ini ファイルを、Wyse Device Manager (WDM) サーバの C:\inetpub\ftproot\Rapport\WTOSCONFIG\WNOS フォルダに置きます。

① **メモ:** ThinOS v8.5 ベースのデバイスの場合は、グループトークン情報は必要ありません。デバイスはデフォルトのポリシーグループに登録され、グループトークンは Wyse デバイスエージェントのユーザーインタフェースで自動的に更新されます。

- 3 WDM Web UI にログインし、**Wyse ThinOS** ページで **チェックイン時の WTOS INI パス オプション** を有効にします。

① **メモ:** WDM Microsoft 管理コンソール (MMC) を使用している場合は、**Configuration Manager** に移動して、このオプションを有効にします。

- 4 WDM でデバイスを再起動します。

ThreadX 5.x デバイスの WDM から Wyse Management Suite への切り替え

ThreadX 5.x デバイスを移行する前に、必ず EM SDK パッケージを最新バージョンにアップグレードしておいてください。詳しくは、「[Teradici ベースのデバイス移行の前提条件](#)」を参照してください。ThreadX 5.x デバイスを WDM から Wyse Management Suite に切り替えるには、次の手順を実行します。

- 1 Wyse Management Suite にログインします。
- 2 **ポータル管理** に移動し、**コンソール設定** セクションの **Teradici** をクリックします。

- 3 Teradici サーバに対応するチェックボックスをオンにして、**サーバを有効にする** をクリックします。
- 4 **デバイスの同期** をクリックします。
EM SDK サーバに登録されているデバイスが Wyse Management Suite サーバに登録されます。

移行後の処理

Wyse Device Manager (WDM) から Wyse Management Suite にインポートしたデータを検証します。ファイルの総数と合計容量の比較には、イベントログを使用します。

データが正常に移行されたことを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 Wyse Management Suite にログインします。
- 2 **ダッシュボード** ページで、WDM からインポートしたデバイスの総数を検証します。
- 3 **ダッシュボード** ページで、WDM インポートアクティビティのイベントサマリを検証します。
- 4 **グループおよび設定** ページで、WDM からインポートしたグループとポリシーを検証します。
- 5 **グループおよび設定** ページで、インポートしたグループをクリックし、対応する設定やリソースを検証します。
- 6 **デバイス** ページで、WDM から切り替えたデバイスを検証します。リアルタイムコマンドを実行すると、コマンドが Wyse Management Suite に応答していることを検証できます。
- 7 **アプリケーションおよびデータ** ページで、WDM からインポートしたパッケージを検証します。

Wyse Management Suite インポートツールのアンインストール

Wyse Management Suite インポートツールをアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 **コントロールパネル** に移動して、**プログラム > プログラムと機能** の順にクリックします。
- 2 **Wyse Management Suite インポートツール** を選択します。
- 3 **アンインストール** をクリックします。
Wyse Management Suite インポートツールのアンインストーラ 画面が表示されます。デフォルトでは、**削除** ラジオボタンが選択されています。
- 4 **次へ** をクリックします。
- 5 アンインストールが終了したら、**完了** をクリックします。

Wyse Management Suite インポートツールのインストーラを使用しても、Wyse Management Suite インポートツールをアンインストールできます。

- 1 デバイス上で **WMS_Import_Tool.exe** ファイルを実行します。
Wyse Management Suite インポートツールのアンインストーラ 画面が表示されます。デフォルトでは、**削除** ラジオボタンが選択されています。
- 2 **次へ** をクリックします。
- 3 アンインストールが終了したら、**完了** をクリックします。

トラブルシューティング

このセクションでは、問題の発生時に、自分で実行できる基本的なトラブルシューティングについて説明します。

① **メモ:** 前回のインポートセッションの詳細情報が必要ない場合は、`%programdata%\WMS-Import\WMSMigrationInfo.json` ファイルを削除してください。

トピック：

- データのインポートの失敗
- 正しくないデバイス、グループ、プロファイルがインポートされる
- Wyse Management Suite にアクセスできない
- ビューとプロファイルのインポート中にインポート処理が停止する
- SUSE Linux デバイスの WDM から Wyse Management Suite への切り替えが失敗する
- Teradici ベースデバイスと WDM および Wyse Management Suite サーバ間の通信

データのインポートの失敗

問題：移行時に、データのインポートアクティビティが失敗します。

対策：`%programdata%\WMS-Import\WMSImportLog.txt` ファイルの詳細なエラーログレポートを表示して、インポート失敗の原因がサポート対象外データではないことを確認します。RSP パッケージと Windows ベース WCM リソースがインポートされない場合は、対応インポートステータス画面のリンクをクリックして、データをインポートする必要があります。「[RSP パッケージのインポート](#)」および「[Windows ベースリソースのインポート](#)」を参照してください。グループ、デバイス、プロファイルをインポートできない場合は、データのロールバックを実行してから、インポートアクティビティを再試行する必要があります。「[ビューおよび Windows ベース プロファイルのインポート](#)」を参照してください。

正しくないデバイス、グループ、プロファイルがインポートされる

問題：正しくないデバイス、グループ、またはプロファイルが、Wyse Management Suite にインポートされます。

対策：[ビューおよび WES プロファイルのタスク](#) 画面で **ロールバック** 操作を実行して、インポートアクティビティを開始します。「[ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート](#)」を参照してください。

Wyse Management Suite にアクセスできない

- **問題：**3,000 を超えるグループと 50,000 台を超えるデバイスをインポートして、インポートツールでロールバック操作を行うと、Wyse Management Suite にアクセスできなくなります。
対策：Dell は、グループのインポートでは 1,500 を超えないようにすることをお勧めします。Wyse Management Suite でサポートされているビューを選択します。
- **問題：**Wyse Management Suite がインストールされているローカルディスクのサイズ以上のサイズの RSP パッケージをインポートすると、サーバにアクセスできなくなります。
対策：Wyse Management Suite サーバのディスクの空き容量が、1 GB 以上あることを確認してください。

ビューとプロファイルのインポート中にインポート処理が停止する

問題：ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート中、インポートツールを閉じて再度開くと、インポート処理が停止します。インポートステータス画面には、ゼロ値が表示されます。

対策：ビューおよび WES プロファイルのタスク画面で **ロールバック** 操作を実行して、インポートアクティビティを再度開始します。「[ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート](#)」を参照してください。

SUSE Linux デバイスの WDM から Wyse Management Suite への切り替えが失敗する

問題：SUSE Linux Enterprise デバイスの WDM から Wyse Management Suite への切り替えが失敗します。

対策：RSP パッケージのスクリプトに入力したサーバ URL、MQTT URL、グループトークンが正しいことを確認してください。RSP パッケージで、デバイスを Wyse Management Suite に切り替えてください。

Teradici ベースデバイスと WDM および Wyse Management Suite サーバ間の通信

問題 - デバイスを Wyse Management Suite に切り替えると、Teradici ベースのデバイスが Wyse Device Manager と Wyse Management Suite の両方のサーバと通信を行ってしまいます。

対策 - WDM サーバをシャットダウンしてください。